

社会－２（地理的分野） 資料の読み取りに基づいて思考を深め、論理的に説明する事例
 【学習活動の概要】

1 単元名 EU加盟国では、政治・経済的統合が人々の生活にどのような影響を与えているか。

2 単元の目標

EU加盟国における、人々の日常的な国境通過、産業の地域展開、交通機関の結び付きなどを追究し、EU加盟国の相互関係や域内の地域間格差の実態などヨーロッパの地域的特色を理解させる。

3 単元の評価規準

【資料活用の技能】

- ・提示された様々な資料から、ヨーロッパの地域的特色に関する有用な情報を適切に選択している。
- ・提出された様々な資料について、資料に表された情報を適切に読み取っている。

【社会的事象についての知識・理解】

- ・ヨーロッパについて、EUの発展と地域格差という主題を基に地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。

なお、本単元は、内容のまとまりである「世界の諸地域」を構成する六つの単元の一つであることから、他の五つの単元の評価と総合して四観点で評価しており、この単元の評価規準は、四観点のうちの二観点のみとして重点化を図っている。また、この事例では「(イ) ヨーロッパ」の単元を、「世界の諸地域」履修上、その前半部に位置付けており、その地誌学習の習熟に応じた評価規準を設定して、他の単元の評価規準との系統化を図っている。

4 単元の概要

本単元は、新学習指導要領社会科地理的分野の「(1) 世界の様々な地域」の「ウ 世界の諸地域」の「(イ) ヨーロッパ」を指導内容として構成したものである。EU加盟国における、人々の日常的な国境通過、産業の地域展開、交通機関の結び付きなどを追究することを通して（下に示した「本時」）、EU加盟国の相互関係や域内の地域間格差の実態などが分かり、ヨーロッパの地域的特色が理解できるように単元を構成する。

5 主な学習活動

(1)単元の展開（全5時間）

	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
第一次	地域的特色を大観させる段階(1)	・「ゆさぶり」をかけるなどして、授業に取り組む意欲を高める。
第二次	主題を設けて地域的特色を追究させる段階 (本時は3時間のうちの第1時目)	・地域的特色について、主題に基づいて個々の条件を関連付け、その特色を考察させる。 ・資料から読み取った情報や、読み取った情報を関係付けて推論した内容をワークシートにまとめさせ、根拠となる情報から結論に至る追究の過程を論理的に説明させる。
第三次	追究の過程や結果を表現する段階 (1)	

(2)本時の学習（2/5時間）

導入	・「ヨーロッパの交通体系には、どのような特徴があるのだろうか。」
展開	・「なぜ、フランスはヨーロッパで一番貨物車保有台数が多いのだろうか。」 ・生徒に複数の資料を提示し、そこから情報を適切に読み取らせることにより、発問に対する推論、理由説明を促す。
まとめ	・発問に対する推論、理由説明から、フランスの地域的特色をまとめさせ、さらにその交通体系から伺えるヨーロッパの地域的特色についてまとめさせる。

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

本事例は、中学校学習指導要領の第2章第2節社会第2〔地理的分野〕の2における、(1)ウ「世界の諸地域」の「(イ)ヨーロッパ」を構成する、その第二次の導入部分の事例である。

中学校社会科改訂の基本的な方針の一つとして、思考力・判断力・表現力等を確実に育むための「言語活動の充実」が示され、社会的事象の意味、意義を解釈する学習、事象の特色や事象間の関連を説明する学習、自分の考えを論述する学習などを一層充実させる旨が示されている。

本事例のねらいは、ヨーロッパ全体の地域的特色を追究する糸口として、提示された各種の資料から、フランスのヨーロッパ域内における地域的特色を考察させることにある。

そこで、①生徒に「ゆさぶり」をかけて学習への意欲を高める場、②提示された複数の資料から有用な情報を取り出し、関連付けて発問に対する答えを推論させる場、③その推論に基づきヨーロッパにおけるフランスの地域的特色をまとめさせる場を設定した。

【言語活動の充実の工夫】

①生徒に「ゆさぶり」をかけて言語活動への意欲を高める場面を設定

導入部で、多くの生徒たちが、貨物車保有台数が一番多いのはヨーロッパ最大の工業国ドイツではないかと予想したところへ、その第一位がフランスであることを示し、「ゆさぶり」をかけた。そのため、生徒たちに「なぜ？」という疑問が生まれ、展開部の学習に意欲的に取り組むことができた。

②複数の資料を一括提示し、発問に対する答えを説明させる場面を設定

「なぜ、フランスはヨーロッパで一番貨物車保有台数が多いのだろうか」と発問した上で、生徒に図1に示した複数の資料を一括提示した。生徒は、提示された資料から、発問に対する回答を得るためにはどの資料を基に考えるべきなのか、(この時点で必要でないのはどの資料なのか、)また、どの資料とどの資料を組み合わせれば、新たにどのようなことが推測できるのか等を考えることになる。

「フランスは食料の自給率が高い」「フランスはドイツに次ぐ工業国である」「フランスはヨーロッパの中で唯一、イギリスと交通網で繋がっている」「フランスの主な貿易相手国は周辺国である」などの情報を読み取り、これらを関連付けて「フランスは、国内で余った農作物を周辺国に輸出しているため、貨物車保有台数が多いのではないか」「フランスは、農作物だけではなく、工業製品も輸出しているため、貨物車保有台数が多いのではないか」「フランスは、ヨーロッパにおける交通の要所であるため、貿易が盛んになり、貨物車保有台数が多くなったのではないか」と、図2中の上欄のように発問に対する答えを推論させ、説明させた。

③フランスの地域的特色をまとめ、ヨーロッパ全体の地域的特色を考える導入場面を設定

まとめの部分で、「フランスの特色とは、そこから伺えるヨーロッパの特色とは何だろうか」と問い、フランスは「工業が盛んなだけでなく、ヨーロッパで一番の農業国」「ヨーロッパ交通の要所であり、周辺国と密接につながっている国」など、図2中の下欄のように、展開部で説明した内容をフランスの地域的特色としてまとめさせた。また、次時以降につながるように、そのことを踏まえて、ヨーロッパの交通体系についても考えさせることで、ヨーロッパの地域的特色について考える手掛かりとした。

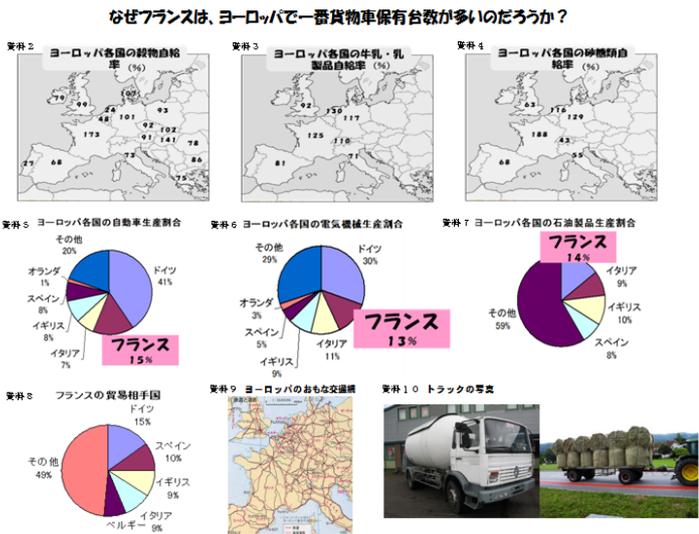


図1 生徒に一括提示した資料

社会科学習プリント(地理的分野)

Q: なぜフランスは、ヨーロッパで一番貨物車保有台数が多いのでしょうか。その理由を考えましょう!

交通網が整っているし、しかも伊豆と唯一、国境を結んでいるから。
 フランスは色々なことが発達していて、それらをヨーロッパ国内に輸出するため
 フランスはいろいろな物を生産していて自給率が高い→車輸送が便利
 貿易相手国がフランスに近い国
 →貨物車を多く保有している
 フランスは土地が多い
 →貨物車を使えば輸送がしやすい

まとめ: フランスは、ヨーロッパの中でどのような国だと言えますか?

工業や農業製品を大量に生産し、それを大量にEUへと輸出していくEUの中心的存在

図2 本時のワークシート(部分)

